

<b>ペフラゾエート乳剤 ヘルシード乳剤</b>	<b>取扱メーカー：</b> 北興  <b>原体メーカー：</b> エス・ディー・エス
<b>成分：</b> ペフラゾエート〔エルゴステロール生成成阻害剤〕…15.0%	<b>性状：</b> 黄赤色澄明可乳化油状液体 <b>毒性：</b> 普通物 <b>消防法：</b> 第4類・第2石油類（非水溶性）・危険等級III

### 【品目特性】 .....

- ばか苗病を始め、主要種子伝染性病害であるごま葉枯病、いもち病に安定した効果を発揮する。
- ベンズイミダゾール系殺菌剤とは作用性が異なり、交差耐性を示さない。
- もみ内移行性が優れているため、薬剤処理後の風乾作業が省略できる。
- 低温条件下でも安定した効果が得られる。
- 他剤との混用、近接処理による悪影響がない。
- 薬剤調製時の粉立ちがなく、浸種中の攪拌の必要がないなど取扱いが容易である。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

### 【使用上のポイント】 .....

- 作業慣行上風乾を行う場合は、日陰で行う。
- 大型種子消毒機を用いて秋処理した種もみでも長期間保存しは種することができる。

### 【薬効・薬害等の注意】 .....

- 稲に使用する場合、種子消毒は浸種前に行い、消毒後は水洗いせずに浸種する。

- 浸漬処理の場合、もみと薬液の容量比は1：1以上とし、種もみはサラン網など粗目の袋を用い、薬液処理時によくゆする。

- 薬液の温度は極端な低温をさける。

- 吹き付け処理の場合は種子消毒機を使用し、種もみに均一に付着させて乾燥する。また、塗沫処理の場合は、適当な容器内で種もみを攪拌しながら、薬液を滴下するなどして、種もみに均一に付着させる。

- 処理を行った種もみを浸種する場合は、次の事項を守る。

- 浴比は1：2とし停滯水中で浸種する。

- 水の交換は原則として行わない。但し、水温が高い場合など酸素不足になるおそれがある時は静かに換水する。

- 河川、湖沼、ため池などで浸種しない。

- 処理により軽度の初期生育遅延を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持する。

### 【安全対策上の注意】 .....

- 種子消毒に使用した残液及び容器の洗浄水は直接河川等に流さない。



### 【適用と使用法】 .....

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用用量	使用時期	本剤及びペフラゾエートを含む農薬の総使用回数	使用方法
稲	ばか苗病 いもち病 ごま葉枯病	20倍	—	浸種前	1回	10分間種子浸漬
		200倍				24時間種子浸漬
		7.5倍	乾燥種もみ1kg 当り30ml			種子吹き付け処理 (種子消毒機使用) 又は塗沫処理
シクラメン (施設栽培)	炭疽病	500倍	100～300ℓ/10a	発病初期	6回以内	散布